

金子みすゞさんの心 vol.1

2024年4月
野毛山幼稚園



本園の大切にしたい心の一つに「金子みすゞの心」があります。

みすゞさんは1903年(明治36年)4月11日生まれ。

2024年4月11日で生誕101年を迎えました。

大正の童謡詩人 金子みすゞさん。

「いのちの尊さ」「生かされていることの喜び」「見えないけれどもあるということ」

小さな命をいとおしく大切に想い、優しい眼差しのみすゞさんは、相手の立場になり、時に相手の立場より低くなって物事を見ます。

見方を変えることで、今まで気づかなかったことに気づくことができ、見えなかったことが見え、聞こえなかったことが聞こえてきます。

《この世に存在するものを全て同等に見つめ、そこから深い悲しみを知りながら、優しく、相手をいとおしみ、個性の大切さを教えてくれ、見えるものを見たら、その影にある見えないものを見なくてはいけない。》

みすゞさんは見えないものの中に真に大切なことがひそんでいることを教えてくれます。

これから、みすゞさんの詩を紹介していきたいと思います。



木
金子みすゞ

お花がちつて
実がうれて
その実が落ちて
葉が落ちて
それから芽が出て
花が咲く
そうして何べん
まわったり、
この木はご用が
すむかしら。

園庭の大きい木…トウカエデに葉っぱが茂ってきました。

今年は芽吹くのが遅いなあと心配していました。ずっと待っていたら、今週あたりから、芽吹き始め、少しずつ葉っぱも茂ってきました。

しっかり根をはり、目には見えませんが、土の中では、木を育てようとする力があるのですね。

春には芽を吹き、夏には茂り、秋には紅葉して、冬には葉っぱを落として枯れ木になる一毎年毎年、木はそれを繰り返していきます。ここまでということではなく、やって来たので「ご用がすんだ」もう終わりーというのではなく、命の続く限り繰り返します。そして、次の代の木へ命のバトンタッチをします。

トウカエデは本当にすごいな、偉大だなと感じます。

木の下から上を見上げると命の尊さ、素晴らしさを思います。

木は、晴れの日も雨の日も、寒い日も暑い日も、風の強い日も嵐の日もどんな時も何も言わないで立っています。人だったらきっと「疲れた」とか「もう嫌だ」とか言っているかもしれません。

この詩は、人もまた、木の一生と同じように命の限り自分の役割を果たしていくことが大切であるということも併せて言っているのではないのでしょうか。